山口新聞　第三種郵便物認可

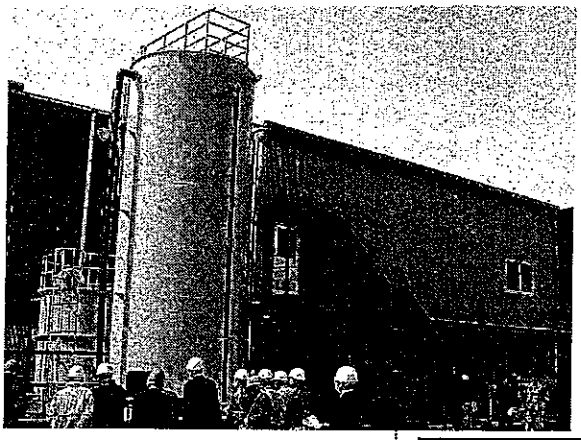
中国特殊グループ

産廃再利用へ2施設

汚泥脱塩や廃棄物選別

来月から本格稼働

周南地域を中心に一般・産業廃棄物の収集、運搬などを行っている中国特殊グループ（本部・周南市久米、吉本英子代表）は、汚泥を脱水・脱塩して再資源化する施設と廃棄物選別ラインの２施設を、下松市東海岸通りに新設した。それぞれグループ会社のリライフ（下松市、吉本英子社長）、吉本興業（周南市、大山鉄夫社長）が運営するリサイクル施設。汚泥の脱塩施設は中国地方で初めてで、両施設とも４月から本格稼働する。



中国地方初となるリライフの脱水・脱塩施設＝下松市東海岸通り

下松

脱水・脱塩施設は、県内外の工場などで出る無機汚泥を受け入れ、水で洗浄するなどして無機塩素を取り除く施設。一日最大三百四立方㍍の処理能力があり、脱塩した汚泥はセメント原料として再資源化される。洗浄水は対岸にある光市の県周南流域下水道浄化センターで処理された水を再利用するため、節水もできるという。総事業費は約三億円。

廃棄物選別ラインは、工場や建設現場などから出る廃プラスチックやガラスくず、コンクリートくずなどを種類ごとに選別する施設。資源として利用可能な廃プラスチックなどは再資源化、がれき類はリサイクル業者や埋め立て業者に引き取ってもらう。処理能力は一日最大三百五十二立方㍍。総事業費は約六千万円。

両施設の完成式が十二日に現地であり、約六十人が出席。神事に続き、同グループの吉本英子代表が「中国特殊グループは、多種多様な廃棄物の100％リサイクルを目指している。今後も法令を順守し、信頼と安心に努めたい」と決意を述べた。

式後、参加者はリライフの上野泰郎リサイクル事業部長、吉本興業の堀田真樹環境事業部長の案内で両施設を見学した。（田辺清史）

21.3.17 山口(7)

鉱工業生産10.2％低下

1月確報、下落幅が拡大

経済産業省が発表した一月の鉱工業生産指数確報（二〇〇五年＝一〇〇、季節調整済み）は、前月比七〇・2％低下の七五・八となり、下落幅は過去最悪を記録した速報値（10・0％低下）から0・2ポイント拡大した。業種別では、食料品・たばこ工業を除きマイナス。生産予測指数は、電子部品・デバイス工業が22・0％減、普通乗用車など輸送機械工業が17・4％減、一般機械工業は13・1％減といずれも大幅低下した。

出荷指数は11・4％低下、在庫指数は2・1％低下。

「電子ペーパー」端末 発売へ

ブラザー

ブラザー工業は、紙のように薄いディスプレー「電子ペーパー」を採用した業務用携帯情報端末「ブラザー

画面はほぼA5サイズで白黒表示。重さは約六百グラム。オープン価格だが十三万九千八百円程度の見込み。書類はパソコンから取り込める。機械の維持・管理作業をする人が、大量のマ

社債60億円めぐり債権者 85％削減に同意

原弘産

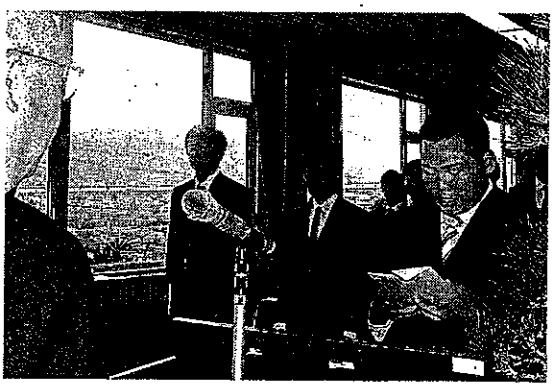
不動産開発会社、原弘産（下関市、原將昭社長）の転換社債型新株予約権付社債、いわゆる転換社債に関し、このほど同社債権者会議がスイスで開かれ、償還を迫られている社債六十億円について、同社が提案していた85％に当たる五十一億円の債務免除を社債権者が承認した。

同集会の前日の十二日までに、海外の社債権者から個別に85％削減案に同意を得ていたという。これにより、社債を額面100％の金額で繰り上げ償還することは回避され、財務体質の改善を図ることにつながりそうだ。

〇七年二月に発行した転換社債で同社は六十億円の資金を調達していたが、この社債権者は〇九年二月二十日で同額面金額での償還を請求する権利を有していた。

額面通りに請求があると六十億円が必要になるが、昨年からの不動産市況の急激な悪化などで業績が低迷。金融収縮もあり厳しい財務状況を余儀なくされ、二月初めに、社債六十億円について、85％に当たる五十一億円の債務免除によって、総額九億円での買い取りを社債権者に打診していた。

新入社員宣誓を行う村上匡彦さん＝周南市のトクヤマ徳山製造所



「責任と誇り」胸に

トクヤマが高卒入社式

周南市の総合化学メーカー、トクヤマ徳山製造所で十六日、入社式があり、今春高校を卒業した総合職の新入社員三十三人が出席した。

新入社員代表の重田征宏さん（一八）＝防府商高卒＝が辞令を受け取ったあと、白神誠一常務が「光り輝く企業の財産となり、生涯勉強を胸に秘めて励んでほしい」と訓示。村上匡彦さん（一八）＝南陽工高卒＝が「一日も早く責任と誇りを持って職務を果たすことを誓う」と新入社員の宣誓を行った。

高卒新入社員は一般職を含め三十四人。ほかに二〇〇九年度の新入社員は短大卒五人、高専卒九人、大卒四十人の計九十二人で、過去七年間では〇七年度と同数でもっとも多い。景気の低迷により、来春の採用数は今春の七割程度に抑制される見通しという。

この日入社した高卒新入社員は、県消防学校での研修や安全教育などを経て、四月三十日付で同製造所や鹿島工場（茨城県）にプラント運転要員などとして配属される。

商品ニュース

☆発泡酒　アサヒ　クールドラフト　アサヒビールは発泡酒「アサヒ　クールドラフト」＝写真＝を十七日（火）から発売する。キレ、爽快（そうかい）な後味実現のため、酵母の選択から仕込み、発酵、ろ過といったあらゆる製造工程で同社醸造技術のノウハウをつぎ込んだ〝クールド

やまぐち経済